

## 議 事 要 旨 (公開用)

- 件 名 令和元年度第3回月形町創生総合戦略審議会
  - 日 時 令和元年12月9日(月) 午後4時00分～5時30分
  - 場 所 月形町役場 大会議室
  - 出席者 委員：14名(別紙のとおり) ※ 欠席：1名  
オブザーバー：空知総合振興局地方創生部1名  
町：堀副町長、古谷教育長ほか10名  
委託事業者：(株)ぎょうせい1名
  - 傍 聴 2名
- =====

### 1 開 会

【開会：企画振興課長】

### 2 会長挨拶

【挨拶：穴澤会長】

- ・ 前回11月に開催し、今回12月ということでございます。1月くらいにまとめに入る流れになると思われまます。
- ・ まさしく今回が前回の説明を聞きながら、第2期月形町創生総合戦略について皆さんの意見を出していただき、活発な議論を進めていく会議になると思っておりますので、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

### 3 議 事

【進行：穴澤会長】

#### (1) 第2期月形町創生総合戦略(案)について

【説明：企画振興課企画係長】

第2期戦略(案)の審議を前回に引き続きお願ひいたします。その前に関連がありますので、資料について若干説明させていただきます。

#### ○ 「北海道人口ビジョン(改訂版 素案)の概要」について

- ・ 北海道の人口ビジョン及び第2期の戦略(素案)が11月26日に公表されております。
- ・ 内容については、既に公開されているものですので、詳しい内容は割愛し要点のみ説明させていただきます。
- ・ 北海道の将来展望人口は、現在の合計特殊出生率「1.27」を10年後に「1.8」、20年後に「2.07」と推計しています。それでも、人口減少に歯止めがかかる状況にはなっておりません。

また、今日までの経過を踏まえると、この合計特殊出生率だけを見ても、実現は相当困難と言わざるを得ない状況と考えられます。

- ・ 従いまして、今後も全道的に人手不足、医療施設の撤退、税収の減、医療費や社会保障費の増、行財政の悪化などが懸念される状況と思われます。

#### ○ 「第2期 北海道創生総合戦略（素案）の概要」について

- ・ 北海道の第2期戦略につきましては、本町も同様ですが、国の4つの基本目標を達成するため、5つのプロジェクトが設定されています。
- ・ 内容については、こちらも公開されているものですので割愛させていただきますが、北海道という大きな枠組みですので、本町の第2期戦略に直接、影響や修正を及ぼす状況ではなく、一体となって推進していくこととなります。
- ・ なお、プロジェクトの一つに第2期の新しい視点である「Society5.0」もあります。こちらにつきましては、今後、ICTの活用が更に急速に進むことも考えられますので、その際は、本町の戦略も修正していく必要があると考えているところでございます。

#### ○ アンケート調査「月形町への定住意向」が低かった30代の分析について

- ・ 前回の会議で30代の「住みたい」が「5.4%」で、その分析はというご質問がございました。
- ・ 先にご回答のとおり、それ以上深い設問は設問数との関係から設定していませんが、アンケート報告書から読み取れる部分がありましたので抜粋しています。
- ・ 「まちづくりアンケート調査報告書」16・17ページになります。「月形町に住みたくない理由」を年代別にしています。30代では、「子育て・教育環境が不十分」、「買い物の便が悪い」、「働く場が不十分」の項目が多くなっています。その他にも「満足度」や「重要度」については、年代別に報告書へ掲載しておりますので、各自ご確認いただければと思います。

#### ○ アンケート調査「回答者の居住地区」の地区別回答割合について

結論から言いますと、北中南地区で前回と比較し、大きな傾向の違いは見られません。いずれも、各地区とも1割以内の変動となっております。

#### ○ 地方創生に関するアンケート調査（転入者・転出者）について

- ・ 第1期の計画策定時である平成27年7月に実施したアンケートになります。
- ・ 先般の会議で、穴澤会長より今後の意見として「町外から町内に通勤している方のアンケート」についてのお話がありました。
- ・ その趣旨に合致するものではありませんが、平成27年に転入者・転出者にとったアンケートがあります。転出者につきましては、住民以外の貴重なアンケートになりますので、今回、参考までに配布させていただきました。
- ・ 詳細については、事前配布しておりますので割愛させていただきますが、「仕事の都合」、主に転勤による移動が大半となっております。

- ・ その中で「不満」のご意見もございますが、それ以上に「満足」のご意見もあります。特に転出者アンケートの8ページでは、転出者の80%弱が「満足」「どちらかといえば満足」とご回答いただいています。自由意見を見ても「自然や静かな環境」、「温厚、おおらか、親切などの人柄」、「安全、安心」など、非常に好感をもっている部分もたくさんあるということが分かります。
- ・ どうしても、「負の情報は広まりやすく、良い情報は広まらない」という特性もありますので、この情報化社会にあっては、負のイメージが先行しやすい部分もあるのかもしれない。
- ・ 地方創生で重要とされている一つに「ファンづくり」ということがあります。先般の会議の中でも「コミュニティや人間関係」についてお話がありましたが、「良いコミュニティを作ってくれる人材」、「月形の良いところを発信してくれる人材」、「月形のファンを広げてくれる人材」、このような人材を「どう見出し、育て、支援していくか」というところも本質的には非常に重要な部分であると考えているところでございます。

## ○ 第2期創生総合戦略（案）について

- ・ 事務局より1点追加をさせていただきたいと考えております。  
先ほどの第2期の北海道の戦略とも関連する部分ですけれども、19ページの「基本方針」及び「日常生活機能対策事業」の中に Society5.0 の視点として、「ICTを活用した情報提供や利便性向上を検討します。」などの文言を追加したいと考えています。インターネットの乗り継ぎ検索で月形のバスを表示させたり、デマンド予約のICT活用などについて検討するというものです。最近の会議等でこれらへの対応について、具体的な部分が出てきましたので、今回、このような文言を追加させていただきたいと考えておりますので、ご了承をお願いいたします。
- ・ それでは、前回に引き続き審議をお願いしたいと思います。  
できれば次回、答申案という形でまとめたいと考えております。可能な限り具体的なものとしていただければ、より反映可能と考えておりますので、よろしく願いいたします。

### 【質疑・意見等】

なし

### 【審議】

- ○ （穴澤会長）前回の続きになります。総合戦略（原案）の「第3章 施策の展開」、10ページ以降になりますけれども、ここの審議を進めていくことになります。
- ・ 前回、ご意見を出していただきましたけれども、更に前回は踏まえてでも、続きでもかまいませんので、ご意見などを出してもらえればと思います。いかがでしょうか。
- ○ （穴澤会長）今回は後期ということで、前期を踏襲しながら後期に繋げていく形になっていると思います。基本目標の4つは前期と一緒に、そのことを踏まえながら具

体的に後期に向けどの辺を修正していくか、更に今のまちの現状や人口ビジョンを踏まえ、どのような方向で考えていく必要があるか、そのようになっていくと思います。どこからでもいいと思いますが、いかがですか。

- ・ 漠然と「どうぞ意見を」と言っても、なかなか意見も出づらいただろうと思います。頭から一個ずつ進めてみたいと思います。
- ・ まず、11ページの基本目標1『産業を元気にして雇用を育むことにより、月形町に「にぎわい」を創る』という項目で、数値目標が「月形商工会の会員数」や「新規就農者数」となっています。基本目標1の施策では、「地域産業の強化」、「農業の持続・発展」、「福祉関連事業の就労推進」、「地域ブランド化の推進」があります。この辺でいかがでしょうか。
- ○ （穴澤会長）例えば、「福祉関連事業の就労推進」で、私もどちらかといえば地域福祉の方の職場にいます。この達成目標と現状の課題で気になっているのは、福祉施設が4つあり、そこの定員数の現状が会議でいろいろ話が出ます。定員数が足りていない、枠はあるけど人が来てない。それでは、来るためにはどうすれば良いかというのは、そうした関連の会議で出ていますか。
- （尾崎委員）それぞれの法人さんで人を集まるための工夫などいろいろされています。その情報共有というのは、ある程度月形町はされています。ただ、新卒や最近では60才過ぎて再雇用する率がすごく多くなっています。そういうことについては、やはりそれぞれの福祉施設の考え方で、新しい方を人材確保しているという形を取っています。
- 実際に、この目標値が「2人」というのは、全体で「2人」という考え方でいいのかと私は見ていました。たぶん、福祉施設の職員はすごく出入りが激しいといたら失礼ですけれども、そういう中で「2人ずつ」増えていくということで見ているのかと見ていました。
- （穴澤会長）年々「2人」ということ。
- （尾崎委員）そうです。
- ○ （穴澤会長）現状で福祉施設の職員は定員割れしていますよね。定員は満たされていますか、どうでしょうか。
- （渡邊委員）職員の定数は満たされています。そうでないと、老人福祉であれば3対1という基準を満たさないと経営できません。ただ、満足なサービス提供ができるかという、ぎりぎりなところもあります。いろいろな運営上の予算の中で余裕のある職員配置をできればいいですけれども、できない状態です。ただ、一つ言えるのは、退職してすぐ求人を出しても、すぐに採用できないこともありますので、前倒しの採用ということもあります。
- ・ それとここで出ている「新規」です。たぶん、これは奨学金を出して学校で資格を

取り、その代わりに帰ってきてからということだと思います。それは各法人も始まっています。２年間で１７５万円の奨学金を出して介護福祉士の資格を取り、５年間奉職するという基準で、これは全道的なものです。ただ、どこの介護学校でも、どこの福祉系の大学でも人がいない、生徒がいない。お金を出しても生徒は来ないですし、紐付きであろうと何であろうと、ちょっと言葉が悪いですけども、なかなかいないというのが現状です。

- ・ だから、今、尾崎さんのおっしゃられた新規採用というリクルート状況ではなくて、もう、途中採用「デューダ」という形で、いろいろな紹介業者を通して来る状況です。それには、仲介業者におおよそ想定年収の２０％から３０％を払うという中で、なかなかハローワークに出しても、うまく帰ってくるような状況ではないです。給料や資格手当を高くとか、いろいろな手当を出しても「月形町に仕事に来る」、「月形町に住む」というのがあり得ない現状です。
  - ・ だから、前回、谷川先生がおっしゃった外国人はという話もあります。空知管内でも来春から外国人もどんどん入り、現地にも入ります。それだけ福祉業界だけでなく、生産業や農業もそうですし、みんなそうだと思います。
  - ・ 町内でも、大きな２０人規模の従業員のいる役員さんで話をしましたがけれども、今、一人採用するのに２００万円位のお金を投資しないと採用はできないという状況だと思います。
  - ・ いろいろな補助金制度、お金を出すこともいいと思いますけれども、根本的に福祉だけでなく、いろいろなリクルート状況は、そういう状況だと思います。
- ○ （穴澤会長）福祉の現場では、なかなかということですね。だから、月形町では福祉施設で働いて通って来る人の割合が、かなり多いのではないですか。
- （渡邊委員）途中採用になると、どうしても家庭があり岩見沢や美唄に住んでいるという状況もあります。単身者で３０歳以下の方であれば、いろいろな家賃補助などの支援もありますけれども、現状は、キャリアを積んだ有資格者をターゲットにすると、３０歳以上の方が採用基準に入ってくると思います。若い方がいいのですが。
- （穴澤会長）採用枠と定住促進というときに、定住するための仕事として福祉の現場の部分では、そこら辺のミスマッチや難しさがあるという現状ですよ。お金を出すからといって月形に住んでくれるかどうかというところ、それが戦略の方に掛かってくるんですよ。福祉の話をしたが農業分野はどういった状況でしょうか。
- ○ （福井委員）新規就農は、何年かかけて大部分の方が来られますけれども、現在の状況はなかなか厳しく、土地の問題で去年もなかなか決まらなかったみたいです。Ｕターンや親元就農など、どのような形でも土地の問題があります。農協などで斡旋といってもなかなかちょうど良いものはありません。大区画的なものにはならないでし

ようから。

- ・ あとは住宅の問題で、一番理想なのは離農者のところに入ってもらえばいいのですが、やはり現在の月形の農地の動きでいくと、府県のように農地中間管理機構みたいなものを使って就農するというのは、月形には少しそぐわない。土地を貸し、就農して借りた状態で何年もというようなシステムには今はなっていない。
- ・ 今、人手の話がありましたけれども、月形町は、とにかく花や果菜類など施設園芸に関しては人手なので、そうすると就農ではなく人の斡旋です。新しくできた法人など斡旋したい気はありますけれども、やはり住まいの問題、あと雇用がありますので、なかなか進んでいない状況です。
- （穴澤会長）その人手といったときに、例えば、それは通年を通してというよりも季節的なものなのか、季節とした場合、春口、秋口、収穫の時期、そういうときに泊まれる場所などがあると、より活発になるかなど、その辺はどうでしょう。
- （福井委員）季節的なことでいうと、年間通して農業法人などに勤めてもらうとしたら現状では酪農以外ないですから。月形の場合、冬季間は当然雇用できないので、その辺の問題もクリアしなければ、例えば、人手がないから外国人を受け入れる格好には正直ならないです。
- （穴澤会長）そういうことですね。
- ○ （梅木委員）少し話は変わりますが、リースという政府が出している各町の能力を測るインターネットのサービスがあります。そのリースで調べると月形町の付加価値、いくら金を産んでいるかというので、一番に半分を占めているのは福祉関係と医療関係です。月形町の半分以上のお金を産んでいるという結果が出ており、福祉関係は強みであり、かなりまちに貢献しているところがあります。
- ・ 第2位が小売業です。小売業は、おそらく、ほとんどがコンビニであり、コンビニでお金を使うことは、お金が本社の方に流れていくので循環率がすごく悪くなるという結果が出ています。
- ・ 自分が結構衝撃を受けたのが、第5位か6位に農業があり、かなり下の方です。つまり農業の中で付加価値、つまりお金を生むような仕組みというのは、結構、税金を使って動いているので、あまりお金が生まれないということになります。

「まちをよくする」と考えると、その農業でお金をどうやって使っていくかというのが大事です。
- ・ それで4番の「地域ブランドの推進化」、「6次産業化」というのは、かなり重要なポイントだと思っています。月形町でたぶん一番成功しているのは、トマトジュースだと思います。トマトジュース以外に、例えば、漬物だとか、そういったものもありますけれども、それ以外に大きなものがないというのが現状だと思います。

その辺に力を入れ、例えば、農業に関してはあまり詳しくないのですが、だめにな

ったメロンやトマトを加工に回せないかなど、もう少し工夫し価値を生んでいかないとだめかなと感じています。

- ・ 自分もったいなと思っているのは、トマトジュースの工場です。詳しく分かりませんが、あそこの稼働は2、3か月くらい。トマトジュースを作っている10月から12月くらいしか稼働していない。冬の間、例えば、農家の冬に手が空いている人たちに貸し出して「自由に作っていいですよ」とか、そういうことができると新たな製品が出てきてということができると感じます。トマトの工場も分からないし、農家のことも詳しくは分からないですけども、そういうことも考えていくと施設も活用できるし、新たな付加価値を生むこともできるのではと感じています。
- （穴澤会長）なるほど。
- ○ （谷川委員）私は、やはり月形のトマトと花。農業の振興を考えていくと、これだけ札幌や岩見沢に近いので、逆に人手不足は、長沼なども都会から車で集めてきて、日中、農作業の忙しいときに割り振りしている会社があります。要するに地元の農家の方が江別や札幌のサラリーマンの奥さんなどを対象に、一時忙しいときだけ人を集めて作業をしている。そんなことを考えると札幌や江別に近いことを逆手に取り、そういう人の確保もできる。
- ・ 「レッドムーン」というのに感動しましたね。食堂で食事の後、すぐに帰ってご馳走になりました。商工青年部の方がね。まだ、特許の関係で「レッドムーン」という言葉の問題を抱えているということですけども。
- ・ 月形の地元の産業というとトマト、温泉、花というセットですね。それで温泉や道の駅を整備していくなどして、いずれにしても通過してきた人を止めれば、起爆剤になるような気がします。そのことを含む計画をもう少し強くできればと思います。「レッドムーン」も住民自らが考え出し、そういう力がある。それらも最終的にまちづくりや雰囲気づくりに発展していくという期待、とても私はうれしかったです。
- ○ （梅木委員）商業関係です。おそらく、このままいくと工業関係の会社など、後継者がいないところが多いように感じるので、あと10年、15年くらいするとバタバタと廃業になる可能性があると思います。そうすると、結構、工業関係の従事者はいて、それが無くなるとかなりまちとしても大きいことです。需要がないならば仕方ないと思いますが、後継者がいないというあたりにも少し視点を当てないといけない。
- ・ それと逆に、起業も増えないとだめだと思います。起業はかなり重要なポイントで、若い人たちが戻ってきて起業したいという仕組みです。例えば、今の仕組みは、おそらく「起業します」というと「100万円か、150万円くらい出します」というような制度だと思います。しかし、これだとこのまちにもあるし、あえて月形で起業する気になるかといえば、お金だけという制度では起業しないと思います。

むしろ、住む場所も空き家なども活用し、もう少しお金を500万くらい、100

0万円くらい出す。1000万円くらい出すなら、きっと来たいという人が殺到して、その中からきちんと選んで、だめなら、また来年に回せばいい。そういうもっと「起業したいよ」という仕組みのものがほしい。今の150万とかだと、どこのまちでもやっていて、あえて月形でやりたという様には思わないと思う。例えば、先ほど谷川さんが言った花や加工品、そういうものを絡めた起業の仕方とかだと、月形町らしきもあり「そこで起業してみよう」というのは、もしかしたら生まれると感じます。

- ○ (穴澤会長)今の新規の部分や先ほどの農業振興の話でも出ていた「住まいの問題」、そこら辺とどうワンセットになっているのかが一つポイントなのかな。人手不足だから、単独で引っ張ってくるかどうかとは別にとのことですね。それをどのように盛り込むのかをちょっと考えなければいけないと思います。
- ○ (山本委員) 転出、転入の平成27年度のアンケートだと思いますけれども、やはり住まいの問題が「出ていく人」も、それから「入ってくる人」も、もう少し住まいがあれば「ここに住みたい」、「単身用の住まいがない」というのが載っていたんですね。アンケートの文書での回答のところ。それで、これは27年度です。現在の公営住宅の状況というのは、どういう感じになっているのか、きちんと入れるようになっているのか、やはり今の人はいくつ古い住宅をすごく敬遠するんですよね。もう何十年も、50年も、60年もあるような住宅ではなく。住宅を確保しなければ他から人材が来たり、起業したり、農家の方へお手伝いに来ても、やはりそこはどうなっているのかと思ったんです。現在は、どういう状況ですか。
  - (穴澤会長) 現在の公営住宅は、どのような状況でしょうかという質問です。
  - (農林建設課長) 公営住宅は215戸くらいありますけれども、今、言われたとおりの古い住宅が多くあります。単身者には市南に「こすもす団地」という住宅があります。今、申し込みや空き待ちは大体なく、希望どおり入れるということが多いです。ただ、時期によりまして、やはり4月頃は入れないということもあります。通年を通すと空きもあり、なかなか増やすというところまでいかないというのが現状です。新しいものに建て替えたいという気持ちはありますけれども、一つ壊して、一つ建てるという順番があるので、この制度がある以上、私どももできないということがありません。
- ○ (梅木委員) 空き家バンクに2・3軒、前に町報に出ていました。2・3軒しか登録されていないけれども実際は空き家だらけで、持っている人が登録していないということですか。
  - (企画振興課長) そのとおりです。所有者のご意思があるものですから、「登録をしたいよ」となって初めて登録されるものです。目には付きますけれども所有者のご判断や意向ということ。その結果あのような形になっています。
  - (梅木委員) 例えば、その空き家を何とかし、町の方から「空き家バンクに登録し



ませんか」という取り組みをします。その空き家をそのまま住むとなかなか若い人は住みにくいと思いますけれども、例えば、中和にある建築屋さんなどで少し改築し、500万くらい補助を出して直して「住んでいいですよ」というような制度にする。結構、比較的若い人も田舎のリノベーションに食いつく人が都会の方にはいると思うので、そういう仕組みがあると来る人がいると感じます。

- (企画振興課長) 実際、登録をしていただくと、かなり買ってくれたり、借りてくれたりということで回転はしています。けれども、なかなか登録まではいかないというような状況です。広報等で知らせているだけで、こちらから所有者の方に直接声をかけるというようなところまで行ってません。やろうとすれば、その辺は可能です。今言ったようなリフォームとセットにはなっていませんけれども、こちらの計画にもあるように「あんしん住宅制度」や「リフォーム制度」はあります。そちらの方は、空き家バンクに登録していないけれども、すごく利用は高まっているという状況ですので、そういう方法も少し検討したいと思います。
- ○ (穴澤会長) そういうことですね。他に福祉の目標値で「2人」、これは「1年」なのか、「5年通して」なのかというところで、これはKPIで「5年間で2人」というのが、今のところの数値設定ですね。いやいや「1年で2人くらい、いかない」という意見でしょうか。
- (尾崎委員) いたらいいと思いました。
- (穴澤会長) 増やすと、それはそれで目標達成するかどうかというのはあります。ただ言えるのは、先ほどの団体さんの話ではないですけども、福祉事業への新規の就業者が増えた方が定住を図れるだろうということは予想できる。そういう現状はあるということです。
- ○ (穴澤会長) 発言しながら私も少しいろいろ悩みどころですけども、たぶん、それぞれが皆さん民間の部分で、私もそうですけど動いている。この動きと総合戦略の行政施策でここまであれば、それぞれ民間として動いたときに動きやすいとか、そういう視点のような気がします。
- ・ 私も福祉部門の現場にいるので、そこを例にしてよく話しますが、例えば、福祉の現場で、うちも実際に定員割れをしています。そうすると、自分のところは、それをなんとか埋めないといけないと思う訳です。実はあと二人くらい月形に住める人を増やせる、小さいですけどそんなことを考える。
- ・ 例えば、それぞれの現場で本当は、近くに住んでくれた方が助かると思っているかもしれない。でも、それはそれぞれの現場で努力する部分と、行政施策としてここまであった方がいいというようなところとの兼ね合い。だから、先ほど農業の話聞いたのは、人手不足だけれどもどのくらい、ぼくも農業関係でお手伝いに行きますけれども、人が足りないということで田植えや稲刈りに行く、「すみません。人は出せません」

と言いながら、やり取りをします。例えば、月形町で実際に農業の部分の牌はどのくらいで、受け入れが本当はあるのかが見えづらいと思います。このくらいの土地なら、このくらいの農業関係者がいる、というようなそんな単純な話ではないと思う。そのようなことも踏まえて全体を考えていければならないと思っていたところです。

- ○ (福井委員) 20年以上前は新規就農というと、先ほど先生が言ったように「花き」がメインで、本当に金額的にも良くて、5年以上頑張ると安定した経営を目指せる時代でした。今は、申し訳ないですけど金額的に単価が取れません。花の場合は、特に技術が必要で、「すぐ入って利益を上げられます」という世界ではなく、就農の仕方としては厳しい時代だと思います。
- ・ 先ほど言われた話で、今の花の生産者の方どなたでも言われることは、とにかく「人を、パートさんを確保してくれたら、まだまだ生産量を上げられる」と言われます。
- ・ やはり、まず地元のパートさんの確保が難しい。また、先ほど谷川先生がおっしゃられたとおり都会の方からといってもなかなか、インターネットなどをうまく使えばとは思いますが。パートさんの斡旋など、そういうシステムがうちの農協にできていませんし、今、そちらの方も手がけようと思っています。そうするとやはり農協だけでなく、行政なども一緒にやっていただかないと、おそらく他の果菜などもみんなそうでしょうけれども。
- ・ 「人手的にはどのくらい」と言われたら、短期間であり、特に花き生産者の方はおそらく「どなたでも」とはなりません。本当にパートさんに技術を習得してもらいながら進むと思います。その辺は、だから「どのくらい」と言われると、難しいですけども人手不足は人手不足です。
- ・ それと、今、新規就農などで来ていただいている方、ミニトマトが割と月形は良いです。最初は花を始めましたが、そこからミニトマトにシフトされる方が結構います。下の方に書いてありますけれど「集出荷施設」なども取り組み、そちらの方に新規就農者をなんとか集め、就農していただきたいです。
- ・ おそらく、花の生産者の皆さんは、とにかくパートさん確保が一番苦労しているというのが実態だと思います。
- (穴澤会長) 人手不足は人手不足ということですね。
- ○ (穴澤会長) 基本目標1から今の移住定住の話も出てきたので、基本目標2まで入っていきましょうか。『移住定住と交流により新たな人の流れを生み、月形町を「えがお」にする』というところです。戻っていただいてもかまいませんが、少しずつ上げていければというところですがいかがですか。この中には先ほどの公営住宅や空き家対策の話もあります。
- ○ (谷川委員) 今回、送っていただいた資料の中に長いアンケートを答えてくれた方のものを感動して読んでいました。やはり観光客がすごく入りやすい立地条件ではな

いかと思います。網走監獄も刑務所的にはそうでもありませんが、監獄館できてから人が通過ではなく完全に監獄に来ます。そういう意味では、福祉施設、刑務所、今の産業、これを横断的に設定していくと相当観光客が来るような気がします。

- ・ やはりそうなると道の駅、農産物の直売所、花の直売所、そういうところが町内の何か所かにあると、自ずと「月形に行かなければ買えないのよ」、「月形に行かなければ見れないのよ」という観光客の人たちが増えてきます。

そのためには、やはり、行政、農協、農業関係者、商工関係者がまず一体になっていく、そうすると、私はこの「12万人」というのはもう少し高く設定してもいいという気がしました。一応、原案は原案でいいです。

- ○ (穴澤会長) 確かに今までの議論の中で観光があまり出ていなかったのも、観光の部分については、どうなのかというところはあります。

いかがですか。別に観光に特化しなくてもいいです。移住定住の促進も含めて、ここに出ているところでどうでしょうか。

- (梅木委員) 観光の件ですけれども、自分も拠点施設と皆楽公園の会議に出ています。それで考えたときに、観光が一番課題だと思ったのは、やはり冬の交流人口がとて少ないということ。例えば、夏なら皆楽公園にキャンプ客が来たり、お祭りがあったり、冬のお祭りも今は地域おこし協力隊が中心にやってくれています。けれども、「冬の人の流れ」をどうやって作るかというのは結構、重要なポイントです。

- ・ 短所なのか長所なのか分からないですけれども、月形町はとて雪が多いというのを使わない手はないと思います。雪がとて多いというのは、実は、例えば、観光を外に向けてみて東南アジアや台湾などの視点で見ると、結構、魅力的なところがあります。雪がすごく多い山の中をスノーシューで歩くだけでも、おそらく、あちらの方たちは、とて魅力的な体験になると思います。それを誰がやるかという大きな問題はあります。例えば、うちの姉の旦那さんは台湾人で月形に住んでいますけど、やはり雪が降って結構いろいろな衝撃を受けています。そのような形ですので、それだけでも観光の資源になります。雪が多いことで、例えば、スキー場の跡地や皆楽公園の中でもいいです。石狩川の横の堤防のところでもクロスカントリーの用具を自由に貸し出し「やっていいですよ」とか、スノーモービルをしている人もたくさんいるのでスノーモービルでもいいです。スノーシューで歩くなどできたら、インバウンド的な観光を呼び込む力になるという様に感じています。例えば、それを地域おこし協力隊でできる人を呼んで、まちとして一緒に企画するという手はあると思っています。

- ○ (穴澤会長) 何かありますか。

3番にいきましょう。基本目標3『安心できる子育て環境をつくることにより、若い世代の「きぼう」をかなえる』、「子育て事業」や「出産支援」というところに行きます。これに関しては、どうでしょうか。「教育環境」の充実も含めてということでご

ざいます。

- ○ (梅木委員) 教育長にお聞きしたいんですけれども、月形高校はどうなっていくのか。自分の意見としては、どちらかにはっきりした方が、このまま延命してもまったく意味のない苦しい状況を生むだけだと思っています。月形高校を「新たに違う形で大きく発展させる」か「止める」かの二択しかないと自分では思っています。このまま「なんとか来てください」としていても、絶対に人口は減っていきます。子どもの数が減っていつている普通高校は山ほどあり、ただ、お金だけが逃げていく状況ですので、たぶん思い切ったどちらかの施策が必要だと思います。今、そのことを町や教育委員会で話しているのかどうかという部分が気になっています。
- (古谷教育長) 二択という極論ですけれども、なかなかそれがはっきり選択できないです。そういう中で今年の新入生が19名という状況でございます。20名を2年連続して切ると道教委の高校配置計画で統廃合の対象になるということです。はっきり申し上げて、来年、例えば1年生を除いて在籍が20名を切ると学校がなくなるという方向に向かいます。それをそうしたくないという想いの中で、来年の配置計画の中で「地域連携特例校」という、今、道内で25の道立高校で取り組んでいる。要するに、岩見沢付近の高校が協力校になって月形高校と連携をするという形で学校を残していきたいということで、これを道教委の方にも既にお願ひしています。来年の配置計画にそれを盛り込んでもらうということで今進めています。そうすると、これも悪あがきになるかもしれないけど、在籍が1学年で10人を切るまでは学校が残れます。10人を2年連続切ると、それこそ今度はどうにもならないですけれども、そういう中で地域の特色を出す。そして、想定されるのは岩見沢の西高や東高です。東高は今既に夕張高校と今年の4月から連携しています。けれども、それに限らず岩見沢東高と連携を組むことも想定に入っています。例えば、クラブ活動も一緒にできるとか、学校から専科の先生がいない部分での遠隔授業、或いは直接先生が岩見沢の学校から来ていただいて授業を受けたり、学校際や部活動などいろいろな面の活動でも連携していくということで、そちらの方向で進もうと考えています。それが、どのように理解されるのか。
- (梅木委員) 自分個人の考えとしては、先ほど言われたように延命でしかないという感想です。自分も高校はまちにあってほしいと強く想っていて、ただ、今のままだと止めた方がまちのためになると思っています。高校の考え方として、来年20人を切らないための方策としては、なるほどそういう方法もあるとの納得はあります。
- ・ けれども、今後、この先を考えたときに、残すとすれば大きな変換は必要で、そのときにどうあるべきかを考えると、月形町民の子どもを受け皿ではだめだと思います。つまり、岩見沢に行くのが大変、札幌に行くのが大変、だから月形高校を残しておこうというような考え方だと、月形町に子どもはいないから絶対に残れない。そういう

高校に「外から人が来てください」といっても、絶対に来ないのではないですか。だって、どこの高校も人が足りなくて、例えば、岩見沢東高校や西高校でも定員を割っている訳だから「そちらに入れる」という考えなら「絶対に月形高校に来ます」というのではないと思います。だからこそ、月形高校ならではの学科でないと思いません。思い切った普通科ではない、例えば、最近では三笠高校や音威子府の高校など、そういった形で残せたらと思います。

- ・ 自分が今思っているのは、自分は今大学に行っていてアントルプレーナーという起業家を育てる大学です。そういうことしている高校は全国を探してもないです。でも、それはアメリカの研究で戦略的な思考というのは今後、絶対必要になってくると言われている力の第2位くらいになっている。そういうのを高校生から育てられる高校があれば他のまちから「月形高校に住んででも行きたい」と思えるようになる。すぐには言わないですけども、ぜひ、延命ではなく、そういう方向で人を呼べるような魅力ある高校を作ってもらいたいと感じています。
- (古谷教育長) 道立高校なので学科の新設というのはなかなか厳しい。
- (梅木委員) それをするなら町立高校などの選択肢、ものすごく思い切った選択になるとは思いますけれど、音威子府は実際に村立高校にしていますし、三笠だって市立高校に変えてやっけていて、できない訳ではなく、やろうという気持ちの問題だけではないですけど、そこまでしなければ止めた方がいいを思います。
- (古谷教育長) そういう中で、今年来られた校長先生はすごくアイデアマンです。早稲田の先生に来ていただいて授業をしたり、昨日は東大大学院生に来てもらい授業をしたり、今、東大とインターネットで繋いで授業を受けるような仕組みを考えています。優秀な子もいるので、なんとかこの3年間で国公立をまた目指せないかということも考えています。校長にも勉強ばかりでなく、例えば、思い切ってEスポーツ科でも作ったらなど、そういう提案もさせてもらっています。これからオリンピックの種目になるような時代だと思うので、そんなことで人を増やせないか考えていきたいと思っています。
- (梅木委員) 楽しみにしています。
- ○ (穴澤会長) 具体的な動きとしては、「人づくり振興事業」、「月形高校生の人材育成支援」、そこら辺に入ってくるということになるのでしょうか。
- ○ (谷川委員) 教育長さんの「道立高校だから無理」ということは、もう捨てなければならない。道立高校であれば優秀な教員を人事異動のときに呼べばいいです。道教委も今までは、とにかく少なければ廃止という時代、これを今見直そうとしている。そのような意味で「地域創生」、私の結論的には、月形高校は本当に絶対なくしてはだめだと思います。それで先ほど言った特化する、特別な札幌の若者が「月形高校へ行って学びたいよ」という学科を作ったらいいというやり方です。

- ・ 北翔大学でも本当にこのまちの学生さんはとにかく人がいい。交流しながらスポーツも好きだし。そういうすばらしい財産や教育財産があり、やはり、それをうまく利用し育てる。もし、教育長さんが全道や全国にない「こういう高校にしたい」という思いがあれば、やはり道教委に積極的に動いて、そういう先生を配置してもらおう。
- ・ 私は、これからは絶対にスポーツと健康づくり、その辺を特化してもいい。それとITです。月形高校行ったら「高校卒業でもITの環境で将来仕事ができるぞ」、「研究者になれるぞ」、そういう高校教育をこれから目指していくべきだと思います。全道いろいろな課題を市町村は抱えていますけれど、もう道教委に依存するのではなく、逆に市町村からそういう様に作っていく、こういう様にしていきたい。
- ・ 三笠も道立から市立に移管のときに、私も相当何年か前から相談を受けていました。本当に心配で大丈夫かということで、やはり人です。優秀な教員を事前に準備して市立に移管していきまされたけれども、校長、教頭、優秀な先生がいると展開していきま
- ・ そんな意味では、私はぜひ教育長さんにその力で引っ張っていくくらい、そして、町長や行政を上げて「月形高校こんな高校にしたい」、そうなれば立地条件からいけば逆に高校生が「ここに住みながら3年間過ごしたい」と、実際に美深などいろいろなところでしています。美深は次のオリンピックに出るような選手が高校生と一緒にあそこで練習しています。そんな意味では、ぜひ攻めに、攻めていかなければ高校の存続は厳しいと思う。
- (古谷教育長) 高校の先生はかなり優秀ですので、それだけは。
- (谷川委員) これから上るためのプラスということで、ものすごく優秀ですばらしい方だと思います。特化した高校にするためには、どうしたらいいかということで。
- ○ (穴澤会長) 他にはいかがでしょうか。基本目標4『快適で安心な暮らしを確保することにより、月形町で「ゆとり」を実感する』というところも含め、ここら辺でどうでしょうか。
- ○ (尾崎委員) 19ページの「予約運行型乗合交通」の状況で、お話しがずっと続いているというのは分かっていますけれども、どのように進んでいるかお聞きしたいです。というのは、最後のページの「医療の満足度」、「見守りの事業」などということに関連してきていると思います。実際に今、「見守り推進事業」を私どもの方で受託しています。25年から始まり当初90人の方を「地域の住民の方と一緒に見守りますよ」と言っていましたけれども、現在、60人ということで高齢者を見守る人も見守られる人も少なくなっており人がいません。その理由は、見守り活動などをしてもやはり病院に行けない。町立病院がかかりつけ医で戻ってきて、そこで見てくれるのは患者にはすごくいいところです。けれども、専門の医療にかかれないということで、結局、大体80代を過ぎると施設に行ったり、病院に入院したり、ご家族のと

ころと一緒に住んだりということもあります。ぜひ、この乗合予約の交通が月形町内だけでなく、岩見沢などにも行けるような、そういう検討がされているかを聞いてみたいのです。

- (企画振興課長) 今、交通関係の活性化協議会という場があり、そちらで町内の循環交通として、デマンド交通、予約運行型のバスをご提案しています。少し進んでいないというのが状況でございます。本来であれば、J Rの代替バスの話題よりも町内の買い物や通院に交通機関が必要だということから話が始まっていました。けれども、J R札沼線の廃止が28年11月から沸き起こり、現在、2路線の代替バス運行の事務局を月形町がしており、事業者と関係三町の取りまとめをしています。日々いろいろな課題が発生しており、町内の件については、来年の4月1日に代替バスを安全に運行開始し、その後に早急に進めていきたいという状況であります。ただ、町内循環ですので、それが他のまちや自治体に行くというような状況にはなっていません。どうか既存の中央バスや代替バスとうまく繋げ活用していただくという形で、今のところは難しいという様に思います。
- ○ (梅木委員) 交通関係ですけれど、もっと未来の話をしたときに「M a a S」という「Mobility as a Service」と言いますけれども、自動運転やいろいろな新たな取り組みが出てきます。自動運転は結構すぐ先の未来で、来年、再来年には始まらないだろうと思うかもしれませんが、来年に5 Gが入ってくるとI C Tの発達により、かなりスピードが上がります。たぶん自動運転などは、5年、10年のうちに何らかの形で私たちのところに入ってくると思います。
- ・ その中で、最近新聞で見ましたけれども、「キックスターター」キックボードの電動バージョン、「小型電動車」小さな電気自動車があり、この辺がすごく小回りが効いて便利です。法律上、公道ではなかなか使えないというのがあり実施できない。でも、例えば、月形町などの田舎で政府から特区をもらえば使えます。新しくできた拠点施設にそういうものを置いて、町中や拠点施設にバスで来て「電動小型車を使い放題で町中を回れます」などする。実際に上士幌町で最近そういうことをして話題になっています。話題になるだけでも、そのまちとしての価値というのは意味があると思うので、そういうことも考えられるということで本当に無責任な発言していますけれども。
- ・ そういう様に課題だけでなく、もっと先を見ていくと10年後、20年後は、いいまちになるというように思います。ですので、今、交通がどうだとかというのが大事ですけれども、10年後を見据えた計画も必要という様に感じます。
- ○ (穴澤会長) 他にはありますか。全体を通してでも大丈夫です。
- ○ (谷川委員) 「ゆとり」や「きぼう」、これをまず住民が享受しなければいけない。住んでいる一人ひとりが「この月形がとても好き、おもしろくてさ」というところで

す。そのためには、住民の自主性、地域創生の本来は主体者である住民がどう思うかです。そこは生涯学習や教育の分野で、もう少し自治会活動、コミュニティ活動、スポーツ文化が入っているけれども、要するにこの町内の人々が「このまちは日本一だ」、そういう活動で子どもたちも月形に誇りを持ち、そんな育て方をまず住んでいる人たちが行き、自信もって「いいまちだぞ」と言えるような町民の意識が高まってくると、外部から非常に関心を持たれるような気がします。

- ・ 何度も言いますが、この自然条件をうまく利用し、かつ、一人ひとりの町民の今やっている活動をもっともっと支援していくような行政計画が出してくると、より発展すると思います。もし、この辺りでどこかに加えられることがあれば、これはなかなか他のまちの行政計画を見ても、その部分というのはさらっとしています。「これからは町民一人ひとりが主人公です」、「主人公の動きでまちが変わるぞ」というくらい言い切ってもいいと思いました。

- ○ (穴澤会長) 全体でいかがでしょうか。

- ○ (梅木委員) 少し内容は別ですけども、自分もここ半年くらい、いろいろ関わっていて、結構重要なものが、自分がそんなことをいうのはどうかと思いますけれども、企画振興課に重みがあり過ぎ、組織的な問題として仕事が回らない、ぜひ、町長に伝えてほしいということです。企画振興課に仕事が回り過ぎて一杯一杯になっているように感じます。ですので、地域創生課など別途の課を置くべきです。まち起こしに専任するような課を置いて、他の総務課など横軸に刺さるような、いろいろな調整ができて、それだけに専念できる課を置くべきです。そうしないと、実際に手が回っていないと思うし大変ですよ。きっと自分が見ていても、すごい仕事量で大変だと感じています。それは働いている方々にとっても良くないし、まちにとっても結果的に良くないことになると思うので、専任の課を置くべきです。すぐの話にはならないと思いますけれども、全体的なことを考えると、そういう課、プロジェクトチームなどを置く必要があると思いますので、ぜひ、町長に伝えていただければ。

○ (穴澤会長) そういうご意見ですね。そろそろ全体のまとめという時間だと思います。いかがでしょうか。移住定住や人口増の話など出ていますけれども。加藤さん、月形町の総合戦略等々ありますけれども、移住してきて月形町の魅力とか、こんなところをもう少し伸ばせばいいのになど、少しご意見をいただけたらというところですが、いかがでしょうか。

○ (加藤委員) ここに来るまでは、東京で13年くらい住んでいまして、東京とこの違いみたいなところで貢献できればいいなと思って参加させていただいています。やはり先ほども少し話に出ましたけれど、観光の部分をもっと伸ばしていければいいと思います。何をやるにも補助金を出すとか、そういうところに目がいつているのはいいですけど、釣るといふか、常にそういう様にやるということであれば財源が必



要になってくる。それをどうやって確保するかといったら、一番手っ取り早いではないですけど、観光のところが有効になってくると思いました。

- ・ 夏はいいですけども冬の皆楽公園だと、冬の観光は何があるのかなというのを考えたときに何も思い浮かばなかったし、そう考えたら屋内の施設とかがあったりすれば、だいぶ変わっていくのかなと思いました。
  - ・ カントリーサインで見るとメロンと花がある訳ですけど、皆さんトマトの話で、メロンはそこまで押していないのかなと少し聞いていて気になりました。メロンを6次化のところでは、単純にメロンパンとか、どこかではメロンゼリーがありますけれども、なんかメロンをもっと活かすような、そんなに活かしていないと思いました。
  - ・ 後は、少し話が飛びますけれど、月形町はそもそもどのくらい全国で、全国だと大きすぎますけど、認知度があるのかなと、月形町は世間的にどれくらい知られているのかなというところも少し気になります。そういうところで月形町をもっと外にPRすることが戦略としては必要になってくるという様に少し思いました。具体的な話が出せないですけども、そう感じたところです。
- （穴澤会長）あとはいかがでしょうか。訳1時間半くらい経ちます。
- （西野委員）たまたま私の父が関わっていたので、グリーンツーリズムのところでは、基本目標2のところですけども、仕組的にあまり認知されていないと思います。本州、関西方面から主に高校生、修学旅行生を一泊、二泊で受け入れをしてご飯を食べさせる、あと農業実習をさせるということが目標です。けれども、北海道はいろいろ見るところがあり、短時間でただ寝に来るときもあります。来た時には、もう草取りの仕事や芋堀の仕事もないという時期もあり、受け入れ側が何をすべきなのか、何をしてもらおうとせつかく農村地帯に来て良かったなと思えることがあるのかを常々疑問に思っていました。
- ・ たまたま、一昨年の冬に受け入れしたとき、自分でも北海道に住んでいて、冬の寒い夜にタオルを振り回したことがありませんでした。高校生の男の子だったのでさせてみると見事に凍ったのを見てみんな面白がり喜んでいました。そういう経験をうちはたまたま住んでいた家を一軒丸ごと使える状況で受け入れしたので、ほかの家族のこととかも考えず、子ども達の交流のことだけを考えてできました。
  - ・ そういう様にもっと大人数で受け入れできる公的なもの、もしくは空き家でもいいですけども、そこで何人かまとめて受け入れられる、空き家バンクを使ってできたらいいと思います。
  - ・ 農家さん一軒一軒で受け入れるのは大変です。自分達の家族もいて、自分たちの家となると寝具を揃え、食器などはあるものでいいですけども、そういうものを家族の分と修学旅行生の受け入れの分と両方平行しながらやるというのも、なかなか大変なことです。ご主人は受け入れしてもいいと考えていても、奥さんがだめというのは

普通のことだと思います。だから、そういう公的なものがあれば、いいと思います。それが町としてできれば大きな人数を確実に受け入れでき、突然キャンセルすることもなくなります。農家さんが受け入れしてくれるという予定になっていても、たまたま都合が急に悪くなって「あら、どうしましょう」ということも過去に実際あったので、そういうことがないような受け入れ体制ができればいいと思います。

- (穴澤会長) ありがとうございます。そういうことですね。あとはもうよろしいですか。時間もそろそろと思います。それぞれヒントになるような意見が、定住、産業振興の発展、観光などあったと思います。それを一個一個の事業として、この中に組み込んで、事業の柱がいっぱいできるという話なのか、町としてどう考えるのかというところがあると思います。
- ・ 私も、この戦略を見ていて思ったのは、今の地域創生や戦略を立てるときに、国は新しいアイデア、梅木くんが最初の審議会のときに、国はアイデア公募でアイデアを出した市や町には、それぞれにその分のお金をつけるというのがありました。国が「こうしなさい」と決めてお金を出すのではなく、それぞれアイデアを出した部分に対してお金を出す。でも、当然、行政もそれを一発で、国としてはよくモデルとしてお金が出てくる訳で、それが「1年、2年です」と言われて「その後どうするの」というところが、やはり踏み出せない部分です。では、そこは行政だけでやるのかという話になるし、そこに「民間や住民の人たちが主体的にどう関わっていくの」という形が含まれないと、それは戦略になっていかないというところだと思います。
- ・ ただ、一つは、この施策があって、この事業だけやればいいのかということなのか、プラス「伸びしろ」のようなところですか。新しいアイデアが浮かび、民間の人たちやいろいろな分野の方々がどうしたら主体的になり、それが動き始めていったときにまちとしても取り組むべきだという形でその後進み、それを行政として柔軟に受け止められるような形になるかというところは、一つポイントとしてあると今の議論を聞いて思っていました。
- ・ 今出た意見を参考にしながら、再度、これが形になるということで、次回、1月にはその部分で、最後の皆さんのご意見を聞きながら、一応「これでいいんじゃないですか」という大体の柱を決めていける形になっていくと思っております。
- (企画振興課長) 熱心なご議論ありがとうございました。今日、皆さんお集まりいただいているのは戦略の審議会の委員ということで、戦略については「人口減少をいかに抑制していくか」という特化した計画で、ご意見をいただいたところです。これと並行して振興計画を現在策定しております。必ずしも戦略という形ではないけれども、町のマスタープランである振興計画が幅広く受け持つ形になっておりますので、そちらの方が似つかわしいというものもあろうかと思えます。具体的な事業として本当にこちらの事業名の中に盛り込めるかということ、なかなか、それを制度的に作って

いくというベースを作らなくてはなりません。前回もお話ししたとおり、今後の5年  
間の中で形づくれるものは少し文章表現として具体化していくというものもあると思  
っております。来年1月までに、どのような形で手直ししていけるのか内部で協議を  
していきたいと考えてございます。

#### 4 閉 会

【閉会：穴澤会長】

- ・ 本日の審議会の方は、これで終了したいと思います。皆さんお疲れ様でございました。



令和元年度 月形町創生総合戦略審議会委員名簿

■任期：R01.07.30～R3.07.29

(R01.12.09現在)

No	役職	氏名	所属等	出欠 (12/9)	備考
1	会長	穴澤 義晴	特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター月形事業所 そらち生活サポートセンター 所長	○	3-2(4) [その他]
2	副会長	尾崎 美世子	月形町社会福祉協議会 事務局長	○	3-2(1) [団体]
3		對馬 照巳	月形町行政区連絡会議 議長	×	3-2(1) [団体]
4		福井 誠	月形町農業協同組合 専務理事	○	3-2(1) [団体]
5		廣野 いづみ	月形商工会女性部 部長	○	3-2(1) [団体]
6		目黒 隆紀	月形町教育委員会 教育委員	○	3-2(1) [団体]
7		稲上 巧	(株)北海道銀行月形支店 支店長	○	3-2(2) [識見]
8		平畑 輝彦	北海道信用金庫月形支店 支店長	○	3-2(2) [識見]
9		谷川 松芳	北翔大学 非常勤講師	○	3-2(2) [識見]
10		西野 智佳子	月形町民生委員児童委員協議会 委員	○	3-2(2) [識見]
11		梅木 悠太	(会社員)	○	3-2(3) [公募]
12		山本 敬子	(主婦)	○	3-2(3) [公募]
13		矢原 雄平	月形町子ども・子育て会議 会長	○	3-2(4) [その他]
14		加藤 文敏	(町への移住者)	○	3-2(4) [その他]
15		渡邊 淳博	月形愛光園 施設長	○	3-2(4) [その他]